

香川県の地震

令和7年（2025年）3月

香川県の地震活動

震央分布図、断面図	・・・	1
地震概況	・・・	1

南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果

（令和7年（2025年）4月7日）	・・・	2
-------------------	-----	---

地震一口メモ

南海トラフ地震臨時情報について（2）	・・・	3～4
--------------------	-----	-----

この資料の震源リスト・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値であり、後日再調査の上修正されることがあります。

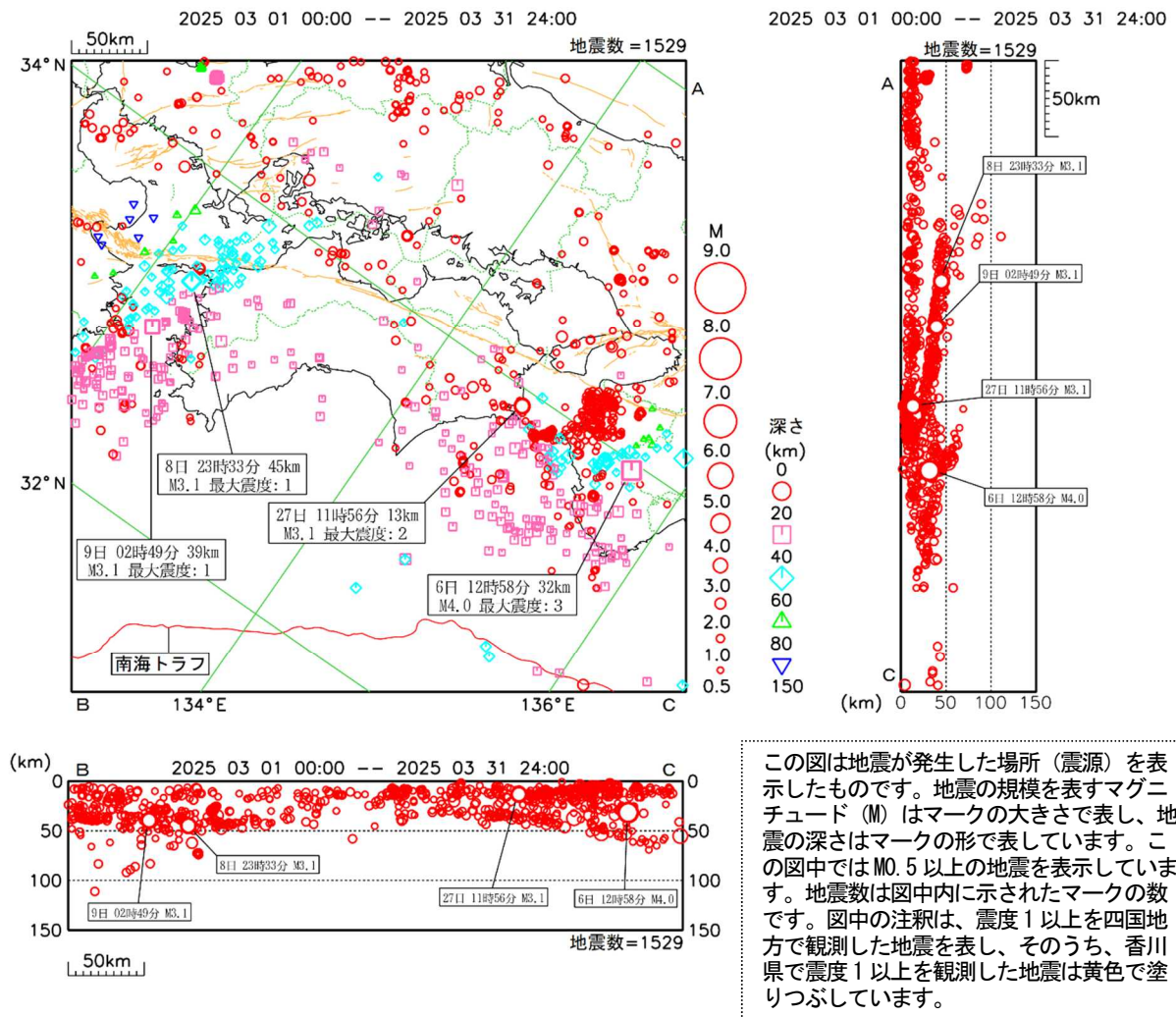
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

高松地方気象台

【香川県の地震活動】

2025 年 3 月

◎震央分布図、断面図



〔左上：震央分布図、右上：A-Cを投影面とした断面図、左下：B-Cを投影面とした断面図〕

◎地震概況

香川県で震度1以上を観測した地震は、ありませんでした（前月は1回）。

四国で震度1以上を観測した地震は、次の5回でした。

6日12時58分 和歌山県南部の地震（深さ32km、M4.0）により、徳島県那賀町で震度1を観測しました。この地震では、奈良県十津川村で震度3を観測したほか、奈良県、三重県、和歌山県、京都府、大阪府、兵庫県、徳島県で震度2～1を観測しました。

8日23時33分 豊後水道の地震（深さ45km、M3.1）により、愛媛県宇和島市・西予市で震度1を観測しました。

9日02時49分 豊後水道の地震（深さ39km、M3.1）により、愛媛県愛南町で震度1を観測しました。この地震では、大分県津久見市で震度1を観測しました。

18日05時00分 熊本県熊本地方の地震（深さ10km、M4.8；震央分布図地図範囲外）により、高知県宿毛市で震度1を観測しました。この地震では、熊本県八代市・芦北町・上天草市で震度4を観測したほか、熊本県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、福岡県、高知県、佐賀県、大分県で震度3～1を観測しました。

27日11時56分 紀伊水道の地震（深さ13km、M3.1）により、徳島県那賀町で震度2を観測したほか、阿南市で震度1を観測しました。

【南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果】

気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。

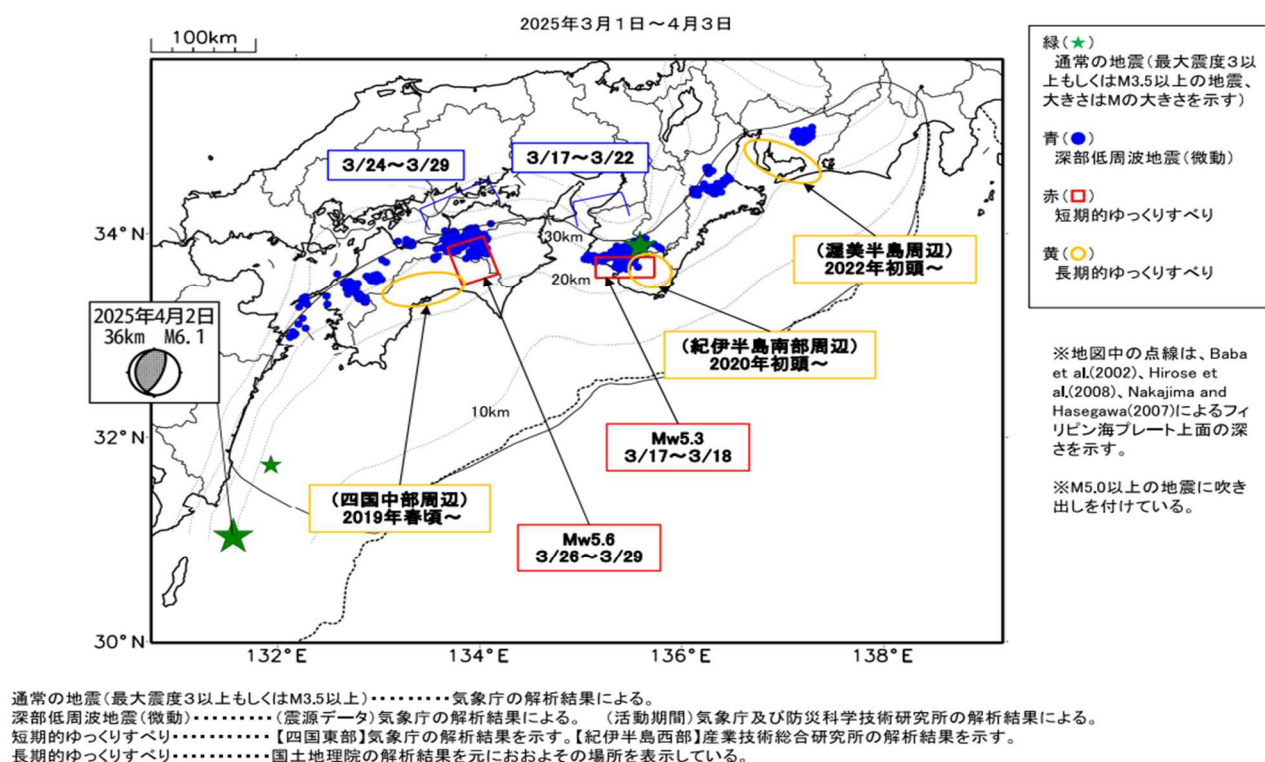
令和7年(2025年)4月7日に公表された評価検討会で評価された調査結果は次のとおりです。

【調査結果 (概要)】

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時(注)と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

(注) 南海トラフ沿いの大規模地震(M8からM9クラス)は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が80%程度であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。

【最近の南海トラフ周辺の地殻活動】



気象庁作成

上図の深部低周波地震(青●)、短期的ゆっくりすべり(赤□)、長期的ゆっくりすべり(黄○)について、これらの現象は、プレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁は、関係機関の協力も得ながら注意深く監視しています。

なお、詳細は、次の気象庁報道発表資料をご参照ください。

南海トラフ地震関連解説情報について ー最近の南海トラフ周辺の地殻活動ー

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2504/07a/nt20250407.html>

また、最新の南海トラフ地震に関連する情報は次のページ(URL)をご参照ください。

ホーム>防災情報>南海トラフ地震関連情報

<https://www.jma.go.jp/bosai/nteq/>

【地震一口メモ】

南海トラフ地震臨時情報について（２）

南海トラフ地震臨時情報発表時にとるべき防災対応

「南海トラフ地震臨時情報」の発表がないまま、突発的に地震が発生した場合を想定し、日頃からの地震への備え（事前防災対策）を徹底してください（図１）。



図1 日頃からの備えの概要

※Yahoo!ニュース制作図解・商用利用不可・図解を分割編集しての使用はできません。

その上で「南海トラフ地震臨時情報」発表時には、政府や自治体などから呼びかけられる、南海トラフ地震臨時情報のキーワード（巨大地震警戒、巨大地震注意または調査終了など）に応じた防災対応をとることが大切です（図２）。

- 「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）」が発表された場合
 - ・地震発生後の津波避難が間に合わない可能性のある住民は、1週間の事前避難を行いましょう。
 - ・日頃からの地震への備えの再確認に加え、特別な備え（すぐに逃げられる態勢の維持や非常持出品の常時携帯など）を行い、必要に応じて、自主的に避難を行いましょう。
 - ・1週間経過してもさらに1週間は、日頃からの地震への備えの再確認に加え、特別な備え（すぐに逃げられる態勢の維持や非常持出品の常時携帯など）を行いましょう。（必要に応じて自主的に避難）。
- 「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表された場合
 - ・日頃からの地震への備えの再確認に加え、特別な備え（すぐに逃げられる態勢の維持や非常持出品の常時携帯など）を行いましょう。（必要に応じて自主的に避難）
- 「南海トラフ地震臨時情報（調査終了）」が発表された場合
 - ・地震の発生に注意しながら通常の生活を行いましょう。ただし、大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意が必要です。

※1週間という期間は、人々が対応が続けられる限度等を加味しているため、大規模地震の発生から1週間が経過した後も、地震の発生可能性は当初より低下しているものの、発生の可能性がなくなったわけではありませんので、引き続き巨大な地震・津波に備えることが重要です。家具の固定や避難場所・避難経路の確認など、これまでに再確認した地震への備えを徹底し、日常生活を送ってください。



図2 「南海トラフ地震臨時情報」のキーワードに応じた防災対応の概要

※Yahoo!ニュース制作図解・商用利用不可・図解を分割編集しての使用はできません。

- ※「巨大地震警戒対応」を呼びかけている1週間の間に、再度、巨大地震警戒の発表基準を満たす地震が発生した場合には、巨大地震警戒が再度発表されます。その場合、「巨大地震警戒対応」を実施する期間は、その地震の発生から1週間後まで延長されます。
- ※「巨大地震注意対応」を呼びかけている1週間の間に、巨大地震注意の発表基準を満たす地震が発生した場合には、巨大地震注意が発表されます。その場合、「巨大地震注意対応」を実施する期間は、その地震の発生から1週間後まで延長されます。

【南海トラフ地震臨時情報の留意事項】

- 「南海トラフ地震臨時情報」は、次の地震の発生を予測（予知）する情報ではなく、大規模地震が発生する可能性が平常時と比べて相対的に高くなっていることを伝える情報です。
- ・南海トラフ地震の切迫性は高い状態にあり、いつ地震が発生してもおかしくないことに留意が必要です。
- ・現在の科学的知見では、南海トラフ地震の発生時期・発生場所・規模を確度高く予測することはできません。
- ・南海トラフ沿いで異常な現象が観測されず、本情報の発表がないまま、突発的に南海トラフ地震が発生することもあります。
- ・地震発生の可能性が相対的に高まったと評価した場合でも、南海トラフ地震が発生しないこともあります。
- ・大規模地震発生の切迫性とその被害の甚大性を踏まえ、不確実ではあるものの、大規模地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まっていると評価された場合には、状況に応じて、この情報を活用して、大規模地震に備えた行動を取ることで被害をできるだけ減らしていくという考え方が重要です。